

## Project Data



INDIA

# 農業で暮らしを営み続ける 村人たちによる 「循環する」村づくり



## どこで

■インド アーンドラ・プラデシュ州  
スリカクラム県



## だれが/だれと

9か村の村人たち

## なぜ

木々が減り土壌が流れ出し、荒廃して  
いく森林。現金収入のために都市  
へ出稼ぎに行く村人たち。

「出稼ぎに行くことなく、孫子の代ま  
でもここで暮らしていけるように」と  
いう村人たちの強い思いと共に、ムラ  
のミライは2007年から「流域」とい  
う単位で、村と周辺の山々、農地を総  
合的に捉え、自然資源を利用し管理  
していくための考え方やスキルにつ  
いて、村人たちに研修を行ってき  
ています。

## 2014 ハイライト

農業改善に取り組む村では、ミミズを  
使ったたい肥を年間 800 キロ以上  
自分の村で踏えるようになりました。  
新しく農業改善に取り組んだ村でも、  
農業の使用をやめ、栽培計画や保水  
土対策を行うことで、コスト削減や、  
長期間に渡って多種類の作物を収穫  
することに成功しました。

また、近隣 6 か村でも流域管理委員  
会が設立されました。1 か村で先  
駆的に行う総合計画づくりでは、村の  
将来ビジョンをかけた「自然資源  
管理」「有機農業の普及」「内部資金  
運用」を3本の柱として、2020年  
までの活動計画が策定されました。



キッチンガーデンでの効果的な野菜栽培



ミミズを使っ  
たい肥づくりの  
デモンストレーション



流域管理委員会を中心に  
村人が設立した種子銀行  
(シード・バンク)の外観

種子銀行の内部▶



キッチンガーデンモデル農地



稲を脱穀している村人



## Project Data



SENEGAL

# インドからアフリカへ 「村人が主役」の 地域づくり手法を技術移転

インドで研修



## どこで

■セネガル共和国  
ティエス州グニエヌ県  
バガナ村及びその周辺



## だれが/だれと

上記の農村に暮らす人々

## なぜ

若者たちが、都会や海外に出稼ぎに  
出なくても、豊かに暮らして行ける  
ような農村社会を実現したい  
というのが、パートナーとなる  
NGO「Intermondes」スタッフの  
切実な願いです。

そこで、地域の農民たちの農業技術  
および営農の能力を強化することで、  
乾燥の進む農村地帯において、  
水資源や土地といった資源を、持  
続的かつ効率的に管理・運営する  
農村開発プロジェクトを新たにス  
タートします。

## 2014 ハイライト

インドで取り組んできた農村開発  
プロジェクトで培った知識・技能を  
セネガルで応用するため、  
Intermondes 主要スタッフ 2 名を  
インドのプロジェクト地 (10 ページ  
参照) に招聘し、1 ヶ月間の研修を  
実施しました。

2 名は、農村における自然資源の管  
理・活用の実践方法および村人主  
体の活動を促すファシリテーション  
技術について学び、理解しました。



Intermondesとインドのスタッフの集合写真  
(インド、バタバトナム研修センター)



資源循環型の村に向けての総合計画づくりを視察  
(インド、アーンドラ・プラデシュ州スリカクラム県)



流域管理事業に参加している村で研修を受ける  
Intermondesスタッフ(インド、アーンドラ・  
プラデシュ州スリカクラム県)



村を訪れて流域のコンセプトを学ぶIntermondes  
のメラニー氏(左から2人目)とママドゥ氏(左から3  
人目)(インド、アーンドラ・プラデシュ州スリカ  
ラム県)



農業改善の活動を視察(写真はミミズを使っ  
たい肥)(インド、アーンドラ・プラデシュ州スリカ  
ラム県)

## これから

セネガルでの活動を本格的に開始  
するための準備として、研修の成果  
を Intermondes 内で共有・普及  
をします。また、助成金申請などで、  
プロジェクト始動の資金集めを実施  
します。

## これから

引き続き、流域管理委員会を中心に、  
各流域での保水土対策を行って  
いきます。同時に、これまでに農業  
改善を実践してきたモデル農家た  
ちが指導員となり、周辺の村にも農  
業改善のコンセプトを普及してい  
きます。